

## ◆茅ヶ崎同盟教会たより

2024年8月

平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。      マタイの福音書5章9節

---

オリンピックが始まりました。2024パリオリンピックの開会式は圧巻でした。セーヌ川を船でパレードする各国の選手たち、その中でウクライナの選手が登場した時に聞いたアナウンスが心に残りました。今大会のウクライナ選手の参加者は過去最少の143人で470人以上の選手が戦争で亡くなったと言うことでした。この日の為に練習に励んでいた選手もいたでしょう。戦争が無ければこの船上に居て歓喜に溢れてウクライナ国旗を振っていたでしょう。このことを思っていた時に「Where have all the flowers gone?」「花はどこへいったの」がふっと浮かんできました。学生時代にピーター・ポール&マリーが歌っているのを聴いていました。作詞作曲はピート・シーガーというアメリカンフォークの父と言われる方です。詞は「花はどこへ行ったの、少女たちが摘んで行った」「少女たちはどこへ行ったの、青年たちのもとに嫁いで行った」「青年たちは何処へ行ったの 兵隊として戦争へ」「兵隊たちはどこへ行ったの 死んで墓へ」「墓はどこへ行ったの 花で覆われた」（別訳で墓は野の花になった）「花はどこへいったの 少女たちが摘んだ」「何時になったらわかるのだろう」と。この歌は繰り返し、繰り返し

「When will they ever learn.」「いつになったら気が付くのか」と歌います。当時、この歌は反戦歌として戦争を今度こそ止めようと盛んに歌われていましたが、今、この歌詞が心に迫ってきます。

これまでも毎回のオリンピックで歌われてきた「イマジン」

（最後の歌詞は「the world will live as one」（世界はきつとひとつになるんだ）がこれからも歌われるそうです。紛争や戦争の地に目に見える平和が一日も早く来ますように。私たちも其々の仕方で平和のために何ができるか、8月この月に向かい合いたいと思います。

伝道師 川島正子